



こんどう きよし 近藤 聖 議員

問 新庁舎周辺の道路等整備の方向は

答 工事進捗状況を見ながら調整

下町田子線の整備

議員 病院横から茶屋場田子線合流点までの道路等の整備計画の概要は。

町長 町道役場線は工事車両等の安全確保のため、仮設的に道路を拡幅した。場所により高低差があるので、進入路及び緊急車両や通院バスの導線などを、新庁舎建設を勘案しながら進める必要があり、調整を図りながら進めたい。歩行空間の確保や国道からのアクセスのしやすさなど、町道の機能と活用を最優先に考えていく。

議員 八幡宮下の道路は落石で事故が発生する可能性がある。交通量の増加を考え、早急な危険防止策が必要ではないか。

建設水道課長 危険は十分認識しており県とも協議している。具体的な工事計画はまだないが、今後

対応・対策を考えていきたい。

議員 田の沢川用水路の地中化を考えているか。

建設水道課長 防災面や冬季の雪の処理を考え、全面地中化は考えていない。

議員 病院横は道幅が狭く途中は水たまりができてやすい。病院完成後、通行量が増え、通学路でもあり大変危険である。また、夜間の通行時大変暗く防犯上からも街路灯が必要である。抜本的な改良の計画はあるか。



見通しが悪く狭いところもある町道下町田子線

副町長 道路拡幅は難しいが、新庁舎完成後の人の流れを考え、車両通行禁止など安全対策を講じる予定である。

建設水道課長 新庁舎建設に合わせ、計画的に街路灯・防犯灯などの設置を考えるたい。

議員 樹木・植栽など新庁舎周辺の環境整備は、政策秘書課長 町民の憩いの場として、工事と並行し新庁舎周辺の一体的な整備を考えていく予定である。

取付道路について

議員 町道茶屋場田子線から新庁舎・病院への取付道路を設置する考えは。

町長 町道と敷地の高低差が大きく病院側への取付は困難である。敷地の有効利用・技術的経済的観点・運用面・安全対策・防災面でのリスク対策などを考慮し検討したい。

旧遠藤邸跡地の活用

議員 旧遠藤邸の敷地をどのように活用、整備していくのか方向性を伺う。

町長 ぐずまき観光地域づくり協議会で「まちなかエリアビジョン」に沿って、蔵を含めた活用計画の検討を進めている。広場や公園など、まちなかの玄関口として町民や観光客が立ち寄れる憩いの場、まちなかの賑わいが創出される空間となるよう取り組む。



しばた いさお 柴田 勇雄 議員

問 出直し後の新庁舎建設を問う

答 新庁舎は4年度の竣工を目指す

新庁舎建設の情報提供

議員 新庁舎建設事業に係る進捗状況の情報提供は適時適切か。

町長 新庁舎建設事業に限らず、町で実施する事業などについては、作業の進捗状況などを踏まえながら議員の皆さんをはじめ町民の皆さんと情報共有できる段階までの調整を図ったうえで、適時適切な時期に情報提供を行ってきた。

議員 完成までの主なスケジュール概要は。

町長 再設計に係る費用については補正予算を計上し、承認いただいたことから速やかに再設計に係る業務委託の作業を進め、すでに契約・発注に至っている。

工事発注時期は、議会12月定例会議において工事請負契約の締結について議決が得られるよう進



もうすぐ本格稼働となる上外川高原の風車

めている。

入札の実施方法については、指名競争入札を予定しているほか、発注区分については建築工事などと電気設備工事を分離して発注する予定としている。

完成の時期は、令和4年8月頃を見込んでいる。その後、2期工事分として現庁舎の解体、分署

棟、車庫棟の建設など、すべての工事の完了時期は、令和5年10月頃の見込みである。

上外川高原の観光誘客

議員 風車が無くなった袖山高原と風車が増設された上外川高原の観光誘客構想は。

町長 袖山高原の風力発電は、令和元年8月を

もって事業を中止し、風車が撤去されたところである。

しかしながら、袖山高原には、高原に広がる牧場、馬淵川の源流、岩手20名山の遠別岳への登山道など観光資源もあり、こうした魅力を一体的に発信していくことで、観光客の誘客に努めたい。

上外川高原の風力発電については、現在建設中の22基を合わせた34基で令和2年12月からの稼働を目指している。

こうしたことから、今後、上外川高原には多くの観光客や視察者などが訪れると予想される。

そのため、観光客等の受入環境として「駐車場」「東屋」「トイレ」「展望施設」などを整備することで、風力発電施設の設置者である電源開発株式会社との間で現在協議を進めているところである。